繪本西遊記

下

水島爾保布畫

Y17
2949

繪本西遊記 下

水島爾保布
文・弓館芳夫

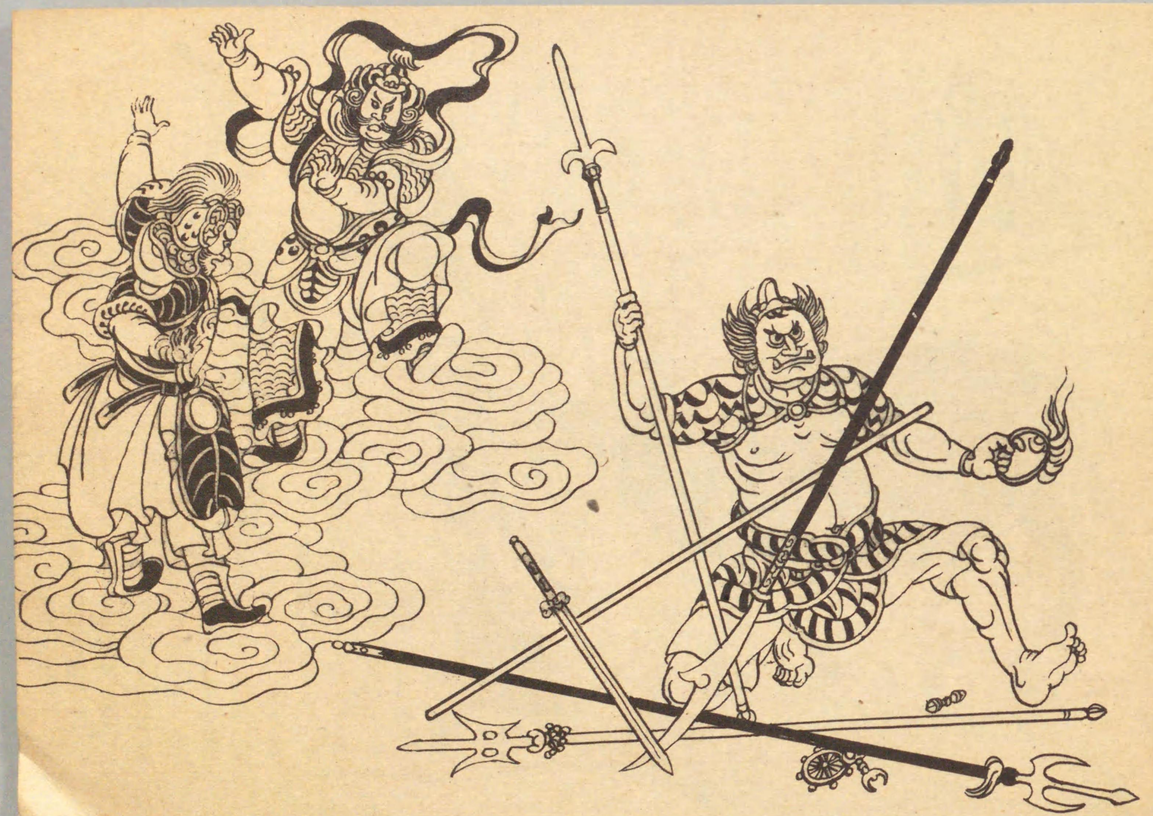
Y17
2949
国立国会
30.3.22
図書館
簡 5078

三人生捕られる

冬のなかばごろ、一行は金兜山（きんとうざん）という高山にさしかかりましたが、寒さは寒し腹はへるでみなヘトヘトです。悟空が食糧を見つけに出かけた後で、八戒と悟浄は、近所の空き寺からどてらを失敬して着てみると、たちまち荒なわに変つて縛り上げられ、一本角の魔王の手で、一同ほらあなにとじこめられました。

如意棒を奪われる

悟空が帰ってみると、誰もおりません。馬蹄の跡をつけて、ほらあなを探しあて、独角魔王とその手下の小化物を相手に、チャンバラが始まります。ころあいをはかって、悟空は如意棒を数千の鉄棒に変え、バラバラと敵の頭上に落させたが、魔王は動ぜず、ふところから金輪を出して空中にほうり上げると、鉄棒はもとの一本に返って、ぶんどられてしまいました。



八

金輪の神通力

大事な如意棒をとられては、悟空もいくさができません。仕方がないから、天上玉帝に願って、神々に援兵に来てもらったが、攻め道具をことごとく金輪に吸取られるのでどうにも手がつけられません。そこでお釈迦様にお願いすると、十六羅漢をつかわして下さいました。羅漢はもって来た金丹砂を振りかけ、砂原の中にうめようとしたが、これも金輪の力にはとてもかないません。砂はもとの丸薬になってすっかり魔王にぶんどられてしまいました。

魔王の正体は黒牛

一同額を集めて考えた末、煉丹のもとじめの太上老君に来てもらうことにします。ところが、この魔王はもと老君の薬をひく黒牛だったので、旧主人におこられて、忽ち正体を現わし『モウモウ悪いことは致しません』と、よつんばいになってあやまりましたので、老君は牛の鼻に、例の金輪をとおしてひき帰りました。

火の山

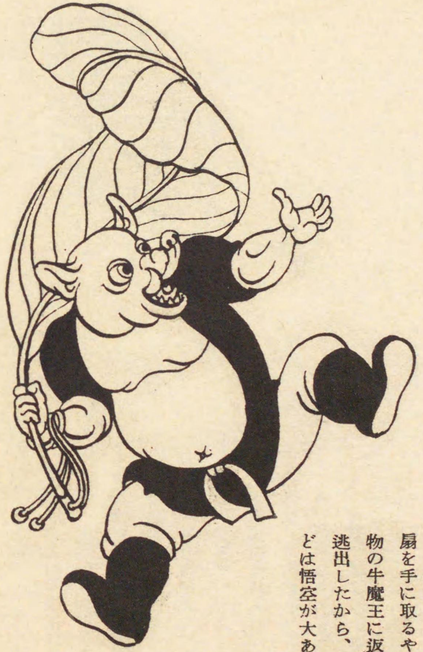
やがて冬も近づいたのに、不思議や日ましに暑くなってきます。聞けば行手に火焔山があるためで、これを消すには、羅刹女が持っている芭蕉扇に限るという話です。悟空は翠雲洞を訪れて、借りようとしましたが、先年養子の紅孩児をいじめられた恨があるのでケンもホロロのあいさつです。

悟空あおぎとばされる

『おとといおいで』とばかり、芭蕉扇で一あおぎすると、悟空の体は木の葉のように吹飛ばされ、翌朝になって、ドシンと着陸したのは、五千里もへだてた小須彌山です。ここは先年黄風魔王退治のときに、救いを求めた霊吉菩薩のお住居、わけを聞いた菩薩は定風丹を持って、助太刀においでになりまし。

芭蕉扇をだまし取る

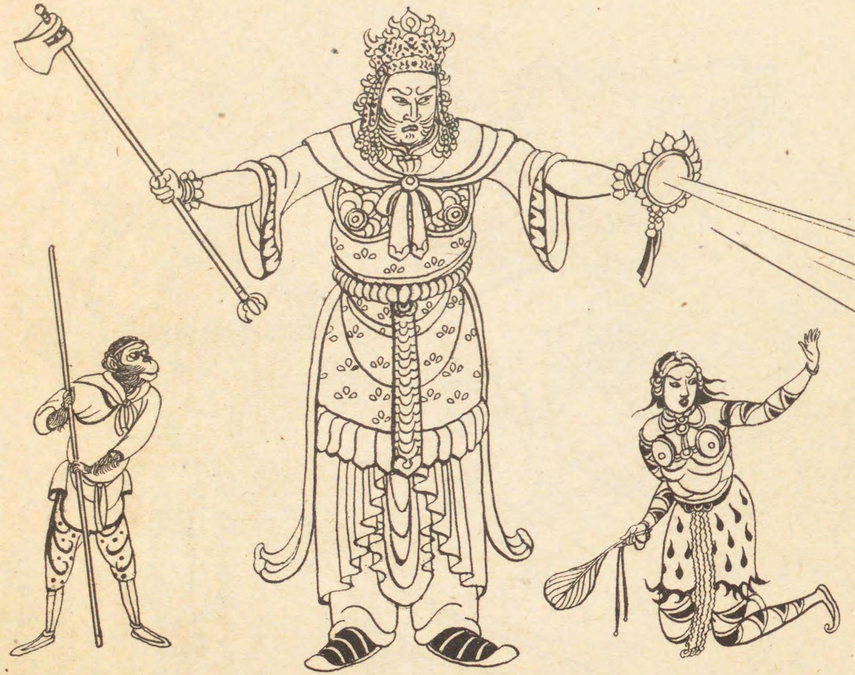
これを知った羅刹女は、洞内に引こもったきり、出ようとしません。そこで悟空はてい主の牛魔王に身を変え、裏門からもぐり込むと、品行の悪いてい主が久しぶりに姿を現わしたので、チヤホヤ大歓迎です。悟空は甘い言葉で、うまくやって芭蕉扇を手に入れ、秘密の呪文まで教わり『ざまあみろ』と捨ぜりふを残して、一目散に逃げだしました。

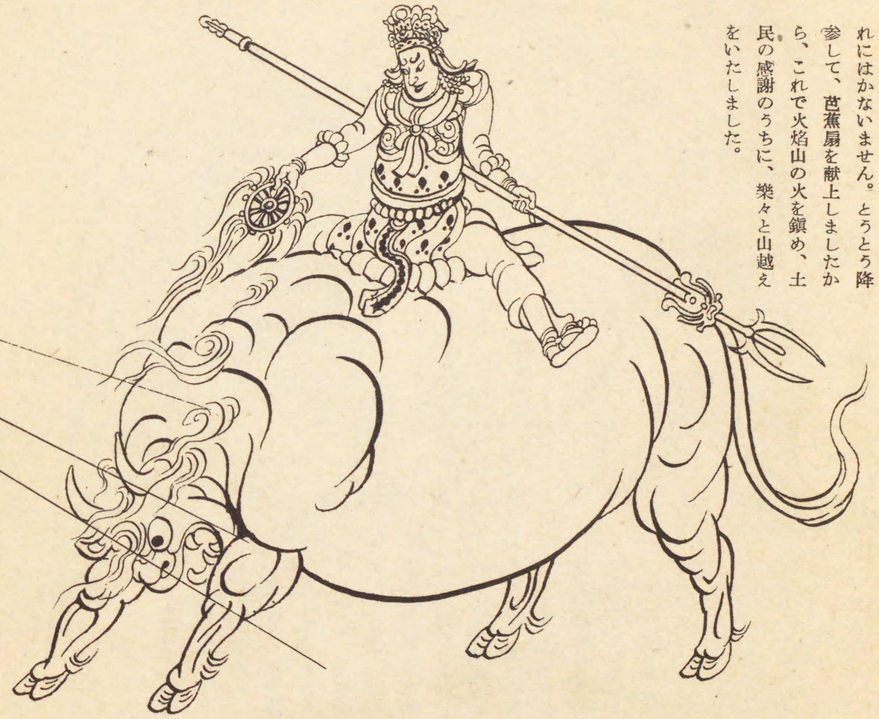


八戒に化けて
そこへ本物の牛魔王が帰って来て、芭蕉扇をだまし取られたと聞いたから、びっくり仰天。すぐに八戒の姿に変り、先き廻りして、悟空の来るのを待っていました。『おい兄き、大した手柄をしたな』『エヘン、まあこんなものさ』『どれどれ一寸借してごらんよ』といって、芭蕉扇を手に取るや、本物の牛魔王に返って逃出したから、こんどは悟空が大あわて。

天地も揺ぐ大格闘
おっかけて、チャンバラをはじめたが、受太刀になった牛魔王は、ひらりと身をひるがえし、長さ千丈、眼は電光の如く、角は鉄塔のようにそびえる大白牛と変った。悟空も負けじと、高さ千丈の巨人になって立向い、ために天地もゆらぐような大格闘がくりひろげられました。

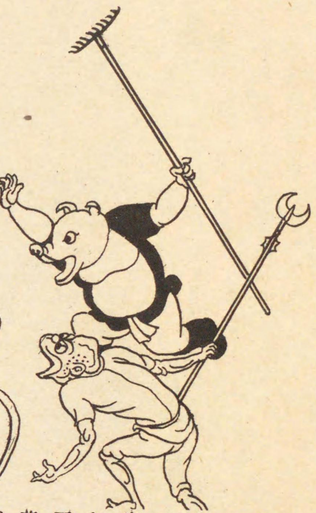
5078

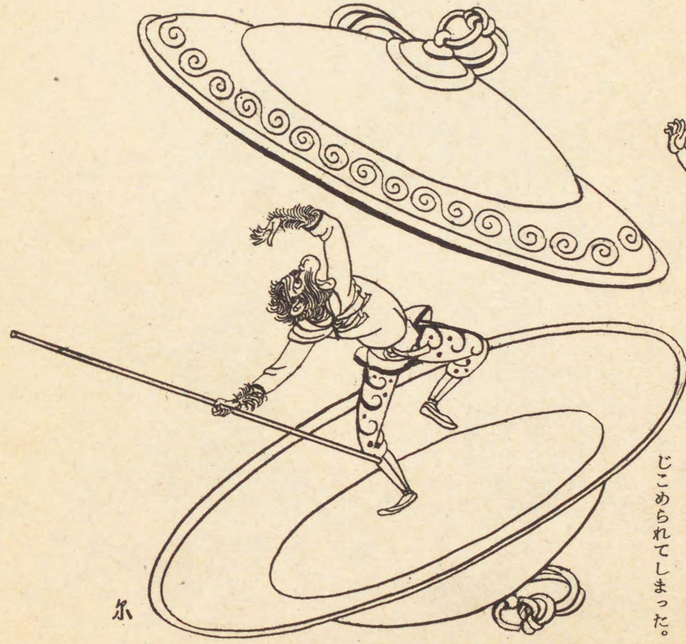




牛魔王遂に降伏

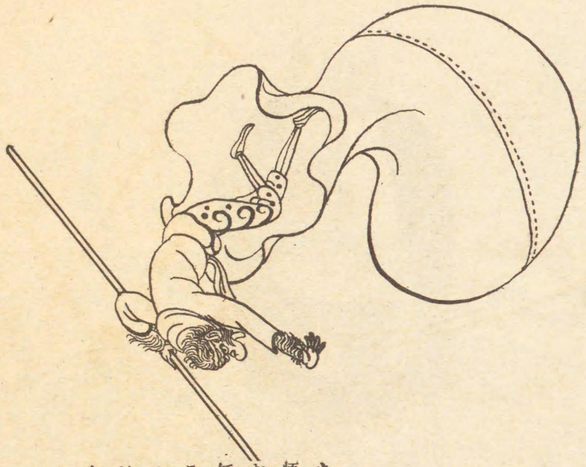
この物音を聞いた天上界では、総動員で悟空を助けに出動、托塔天王（たくとうてんのう）は照魔鏡、哪托太子は火輪児（かりんじ）をもって攻立てたので、牛魔王もこれにはかないません。とうとう降参して、芭蕉扇を献上しましたから、これで火焔山の火を鎮め、土民の感謝のうちに、楽々と山越えをいたしました。

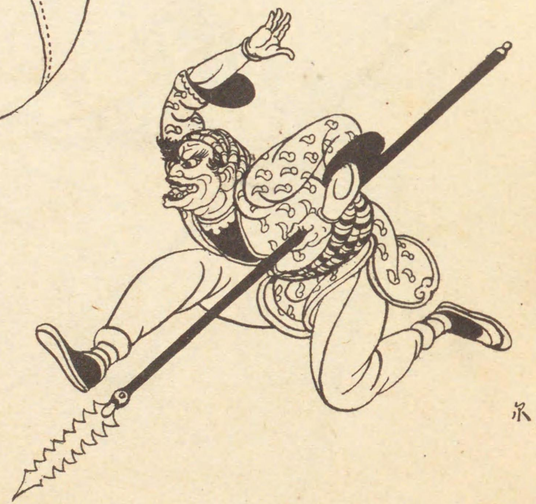




悟空をとじこめる

一行は荊棘嶺を過ぎて、小雷音寺といふりっぱな寺に詣でました。見ると須彌壇に列ぶ佛像はことごとく妖怪の変ったものですから、悟空は如意棒を振上げてなぐり倒そうとした時、天井から大きな金鏡が落ちて來てピタリととじこめられてしまった。





お犬は布の袋

悟空は如意棒を錐にしてあけた穴から、やっと外に飛出し、妖怪の頭目に打ちかかったが、こやつなかなかのしれ者。布の袋を投げかけて悟空を吸い込み、三蔵ともども酒の肴に食ってしまおうと相談しています。驚いた悟空は豆粒になって抜けだしたところへ紫雲に乗って彌勒菩薩が見えたから、急いで救いを求めました。

まくわ瓜になる

菩薩は『よしよし
あれは召使の黄眉
童子で、宝物の鉢
と袋を持逃げした
奴じゃ、あいつを
おびき出してまい
れば…』あとはこ
うこうと策を授け
る。悟空は喜んで
『ようがす、私が
まくわ瓜になるん
ですな。これは面
白くなって來たぞ』

腹の中で大あばれ

計略はうまく運び、おびき
出された妖怪はのどがかわ
いたので瓜賣りに変った彌
勒菩薩から大きなのをゆす
ってもらい食べたからだま
りません。悟空は腹の中で
思うぞんぶん暴れ廻ったの
で、妖怪は悲鳴をあげて降
参し、クシャミと同時に、
悟空は外へ飛出しました。

大蛇の腹に飛込む

夏の初めごろ、七絶山にさしかかると、五、六丈もある大蛇が道をふさいでいます。八戒は毒氣に吹かれて逃出したが、悟空は先日の手を使って、進んで腹の中に飛込み、如意棒で方々つつき廻したから、さすがの大蛇もあっさりノビてしまいました。

八戒大活躍

この七絶山は、一名を柿の糞山と呼ばれ、全山糞土でおおわれています。八戒は悟空におだてられて、道路をきりひらくことを引受け、小山ほどの大豚に変つて、もうれつな鼻息で糞土を吹飛ばして行く。村民たちは後から後から食物を運ぶので、八戒の勇氣は加わるばかり。三日三晩で八百余里の難所を切りひらいたのは、八戒としては大手柄といわねばなりません。

美女の吐出す糸

やがてまた春たちかえり、桃の花咲く美しい村に着きました。三蔵も心うきうき、自分で食糧を求めに出かけたところ、現われ出た五、六人の美女がへそからくり出した糸で、縛り上げられてしまった。悟空が心配して探しに行くと、折しも美女たちは露天の温泉に入浴中だったので、三蔵を救った上、すばやく着物をかっぱらって帰って來ました。

鯰に変った八戒

それと聞いた八戒は『おれがこらして來る』と急いで出かけましたが、実は一寸目的があったのです。いきなり露天風呂に飛込むや、鯰に変つて、ニョロニョロ裸女の間を泳ぎ廻り、良い氣持になって、何喰わぬ顔。

毒茶にやられる

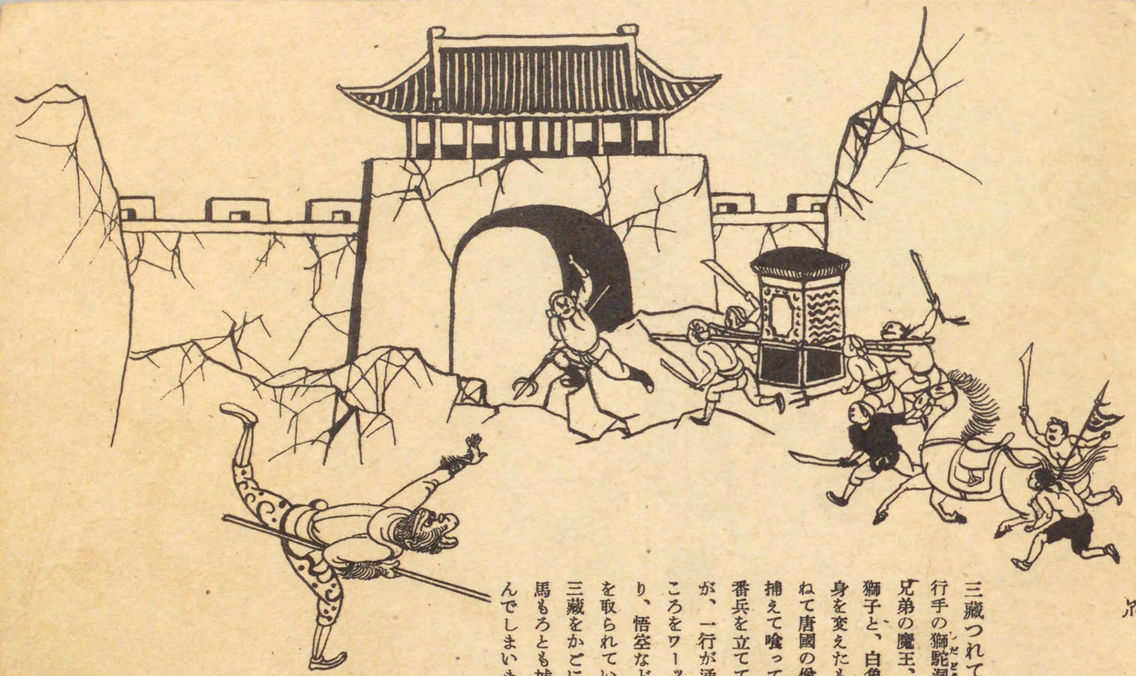
女たちは、隣村に住む叔父の黄花観道士を訪れ、かたきうちの相談をしていると、三蔵の一行が通りかかりました。道士は自分で茶を煎じてすすめましたが、これが毒茶だから三人は泡を吹いてぶっ倒れる。悟空だけ用心して飲まなかったので道士に打かかります。

腋の下に眼あり

悟空は蜘蛛の糸から逃れて、空中に舞上り、怪道士と一騎打で戦っているうち、道士は急に肌ぬぎになると、腋の下にある数十の眼からピカピカ鋭い光を射かけ、とてもまぶしくてたまりません。悟空あわてて地上に飛降り、もぐらになって土中にもぐりこみました。やがて土中から首を出して、村人から道士のすじょうを聞き、毘藍婆菩薩にお助けを乞うて、こらしめに出かけます。

美女の正体

悟空の姿を見つけて、立向って來た道士に、菩薩は持って來た縫針を投付けると、道士は大百足、女たちは女郎蜘蛛の本体に返って刺し止められました。死んだ三藏は解毒丸で生き返り、厚く菩薩にお礼を言って西に旅立ちました。



三藏つれて行かれる

行手の獅駝洞に住む三人兄弟の魔王、実はこれは獅子と、白象と、孔雀が身を変えたものです。かねて唐國の僧が來たら、捕えて喰ってやろうと、番兵を立てて置きましたが、一行が通りかかるところをワーッと襲いかかり、悟空などが防戦に氣を取られているすきに、三藏をかごに乗せて、白馬もろとも城内に運れこんでしまいました。

悟空たちとりこになる

三人は驚いて、いろいろと三蔵を奪い返えそうとしましたが、三魔王とも智恵も腕も達者で、容易に歯が立ちません。疲れきったところを、あべこべに生捕られてしまいました。悟空だけは、うまく怪鳥のくちばしから逃れ、ほら穴に入ってうかがうと三蔵はもう喰はれてしまったとのうわさです。悟空はがっかりしてこの上はお釈迦様に頼んで、頭の輪をはずしてもらい、故郷に帰って三蔵の菩提をとむらおうと思い立ち、しおれ切って霊山に向いました。

三魔王をやつつける

しかしお釈迦様は、すべてをごぞんじです。悟空をなぐさめ、文珠、普賢両菩薩を連れ獅駝洞においでになると、旧主のお出でに、三魔王は正体を現わして罪をわびます。無事でいた三蔵たちの拝むうちに、お釈迦様は金の孔雀、文珠は獅子普賢は白象に乗って霊山にお帰りになりました。

空中から太い手

ちょうど盂蘭盆のころ、金平府に着き、名物の大燈籠を見物に行きましたが、一陣のなまぐさい風とともに、空中から太い手が現われ、三蔵の首すじをつかんで、飛去りました。

海中に三魔王と闘う

引返して八戒悟淨と、魔王の住む伐英洞に押かけたが、二人は敵に謀られて、生捕られるふがいなさ、くやしいが悟空一人ではどうにもなりません。そこで天上玉帝に願うと、星辰二八宿中の勇者角木蛟、斗木獬、奎木狼、井木犴の四木星神を助けにつかわされました。

魔王三兄弟

魔王三兄弟には木星神が大のにが手です。さいに変って一目散に逃出し、西海にもぐり込んだが、井角二星は悟空をつれてこれを追かけ、魔王が再び陸に逃げ帰ろうとするのを、待ちかまえた奎斗二星とはさみ撃にして打殺してしまいました。捕われた三人も無事に救出され、永年魔物に苦しめられた金平府の住民たちも大喜びです。

三藏凡胎を脱す

一行はようやく靈山のふもとまで來ると、前に洋々たる大河が流れている。舟を頼んで中流にさしかかったとき、過まって河中に落ちた三藏を、皆で救上げましたが、不思議にも同じ姿が、川下に流れて行きます。一同『オヤオヤ』とあっ氣に取られたも道理、しかしこれは凡胎を離れて佛身になったしるしでした。

めでたしめでたし

こうして、いろいろ苦しんだ末、目的の大雷音寺に到着。お釈迦様もご満悦で、一万五千余巻の経文を授けられ、三藏はじめ三従者と白馬の労をほめられて、それぞれ佛菩薩に任ぜられました。悟空頭をなでて見ると、いつのまにか頭の輪が取れているから大喜び。かくて西遊記も、めでたしめでたし大團円ということになります。

Y17-2949
1200600480733

發行所　東京都港區西芝浦三ノ二　株式會社　トッパン

25 3.25